



歴史と人と未来をつなぎ  
新たなにぎわいを創るみち

ひろしまじょうか・まちなかさいごくかいどう

## 広島城下・まちなか西国街道

平成30年度認定 / 広島市中区・南区 / まちなか西国街道推進協議会

### 城下町の名残をたどり 平和への祈りの聖地へと誘う道

天正19年(1591)、毛利氏によって太田川河口の三角州の上に城が築かれ、城下町広島の歴史が始まります。時代とともに、その発展を足元から支え続けてきたのが城下を東西に貫く歴史の道、西国街道です。古代～中世山陽道の系譜を継ぎ、城の南に引き込まれた西国街道沿いには、しだいに町人町が形成され、大店が並び、城下町の賑わいの中心となっていきます。

三角州に築かれた城下町では、川は天然

の堀に見立てられ、軍事的な目的で架橋が制限されましたが、西日本の幹線道路だった西国街道には猿猴橋、京橋、元安橋など毛利氏時代からの橋が架けられていました。その近くの河岸には、かつての水辺の暮らしをしのばせる雁木を備えた裏木戸や船つなぎ石、小さな社などが残り、往時の茶店が復活したかのようなオープンカフェも並んでいます。



京橋川河岸には、市杵嶋姫神社や新名所の水辺のオープンカフェが並び、昔と今が同居しています。

## 消えた町名や水路に宿る 城下町成り立ちの面影。



仏壇商が軒を連ねる仏壇通りでは、伝統の漆技術を活かした新商品 広島塗の漆器も製作されています。

自然の川だけでなく、京橋川と元安川の間には、今では姿を消していますが、八丁堀・薬研堀、流川、平田屋川(現、並木通り)、西堂(塔)川(現、鯉城通り)などの堀や水路が掘られていました。また、この区間の西国街道沿いの町名には、消え去ったものも多くありますが、それらは町の成り立ちの記憶をとどめ、そこで営まれていた商人や職人の営みを彷彿させてくれます。本通り商店街の舗道には旧町名の銘板が設置され、400年続く老舗商店もあり、かつての商人が集住した町の雰囲気は仏壇通りにも見て取れ

ます。

明治以降、城下町は近代化の波を受け、陸軍施設の設置、水路の埋め立て、被爆、そして復興事業などによって景観は大きく変わりましたが、西国街道の道筋は残っています。広島市の玄関口・広島駅から原爆にも耐えた橋、ビルの谷間にたたずむ寺社、江戸期から続く老舗、消えた町名や橋の銘板などを宝探しの気分でたどって行けば、1時間足らずで平和への祈りの聖地、平和記念公園に着くことができます。

### 「まちなかの西国街道を軸に、楕円形の新たな賑わいづくりを目指しています」



「まちなか西国街道推進協議会」会長の山本一隆さん

再開発が進む広島駅周辺地区と従来からの商業中心地、八丁堀・紙屋町・本通り地区、そして広島平和記念公園をつなぐのがまちなか西国街道です。西国街道マップの作成を契機に、思いを共有した人々が集まりかつての「賑わいづくり」へと還元するべく協議会を発足しました。自治体や周辺地域の人々とともに、西国街道の可視化、賑わいの共創、伝統技術や歴史の継承、情報発信などを通じて、「歴史を、賑わいを、ひとを、未来をつなぐ」活動に取り組んでいます。

